

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭60—2539

51 Int. Cl.⁴
A 61 L 2:26
2:06

識別記号

庁内整理番号
6779—4C
6779—4C

移公開 昭和60年(1985)1月10日

審査請求 有

(全 頁)

54 医療器具滅菌袋

堺市緑ヶ丘南町2丁目61

出願人 大研医器株式会社

大阪市東区内本町2丁目27

21 実願 昭58—93685

代理人 弁理士 宮地正一

22 出願 昭58(1983)6月17日

72 考案者 山田満

明 細 書

1 考案の名称 医療器具滅菌袋

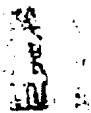
2 実用新案登録請求の範囲

医療用透明プラスチックフィルム(1)の片面(2)に、網目状不織布(3)の片面(4)を貼着し、その不織布(3)の他面(5)に、有孔透明プラスチックフィルム(6)の片面(7)を貼着して相乗プラスチックフィルム(8)を形成し、その相乗プラスチックフィルム(8)を適當の大きさの長方形に截断して有孔透明プラスチックフィルム(6)面に、その有孔透明プラスチックフィルム(6)と同形の透明プラスチックフィルム(9)を重合し、一方の側端部の収容口(10)を残し、他の側端部(11)(12)(13)を熱熔着してなる医療器具滅菌袋。

3 考案の詳細な説明

本案は、医療用透明プラスチックフィルムの片面に、網目状不織布の片面を貼着し、その不織布の他面に、有孔透明プラスチックフィルムの片面を貼着して相乗プラスチックフィルムを形成し、その相乗プラスチックフィルムを適當の大きさの長方形に截断して有孔透明プラスチックフィルム

(1)



面に、同形の透明プラスチックフィルムを重合し、一方の側端部を残して他の8方の側端部を熱熔着して袋体とした医療器具滅菌袋に関するものである。

従来より用いられている医療器具滅菌袋は通気性を有する強靱な紙製のものであって、その紙製滅菌袋内に被滅菌器具を入れて口部を密封し、高圧蒸気滅菌器内に入れて一定時間高圧蒸気力により滅菌しておった。然しこの紙製滅菌袋は不透明であるため、内部に収容する被滅菌器具の名称および大小の区別を事前に袋上に表示しておかないと、滅菌後高圧蒸気滅菌器より取出した時、収容物の区別が判らなくなる。故に収容物表示のための作業が必要となる。更に滅菌後袋の取扱いに注意しないと、手術用メス、ピンセットなどの尖った部分でピンホール、又は破れを生ぜしめて滅菌効果無くしてしまふものである。

このような欠点を除去するため、出願人はさきに実用新案登録第1461517号医療器具滅菌袋の考案をしたのであるが、本願は更にその考案

に改良を加えたものであって、上記登録実用新案では、医療用透明プラスチックフィルム(1)の片面(2)に、網目状の不織布(3)を貼着して部材とし、その部材により袋体を形成したものであるが、本願は上記部材の不織布に更に有孔透明プラスチックフィルム(6)を貼着して相乗プラスチックフィルム(8)を形成し、その相乗プラスチックフィルムと、別の透明プラスチックフィルムとにより袋体を形成したものであるから、袋体の側端部を熱熔着する際の接着性が向上し、製袋後医療器具を袋内に収容し、高圧蒸気滅菌器内に入れて長時間高圧蒸気に触れても袋体側端部の接着部が分離することなく強着し、不織布の非熔着部の間隙より浸透する高圧蒸気は有孔プラスチックフィルム(6)の無数の小孔より袋体内に入り勝れた滅菌効果をあげるものである。

実施例によりこれを説明すれば、医療用透明プラスチックフィルム(1)の片面(2)に、網目状不織布(3)の片面(4)を貼着し、その不織布(3)の他面(5)に、有孔透明プラスチックフィルム(6)の片面(7)を貼着して相乗プラスチックフィルム(8)を形成し、その



相乗プラスチックフィルム(8)を適當の大きさの長方形に截断して有孔透明プラスチックフィルム(6)面に、その有孔透明プラスチックフィルム(6)と同形の透明プラスチックフィルム(9)を重合し、一方の側端部の収容口(10)を残し、他の側端部(11)(12)(13)を熱熔着してなるものであって、図中、(14)は収容口熔着部、(15)は小孔、(16)は注射器である。

本案は叙上のごとき構成によりなるものであって、被滅菌器具は、収容口(10)より袋内に入れ収容口(10)を熱熔着(14)して密封し、高圧蒸気滅菌器内に入れ高圧蒸気により滅菌するものである。高圧蒸気は熔着せる側端部(11)(12)(13)(14)の網目状不織布(3)の毛細管現象により内部に圧入し、更にその圧入高圧蒸気は有孔透明プラスチックフィルム(6)の無数の小孔(15)より袋内に没入して被滅菌器具を滅菌するものである。

袋体の片面となっている相乗プラスチックフィルム(8)は、すべて医療用透明プラスチックフィルム(1)と、網目状不織布(3)と、有孔透明プラスチックフィルム(6)とを一体的に貼着したものであって、

(4)



網目状不織布(3)に毛細管現象を生ずる微細な間隙があっても、その間隙上の表裏両面に、透明プラスチックフィルム(1)と、有孔透明プラスチックフィルム(6)とが強力に密着しているため高圧蒸気により密着力が阻害され分離することがない。又有孔透明プラスチックフィルム(6)と、袋体の他面となる透明プラスチックフィルム(9)とは、同質のものであって接着性に富むから側端部(10)(11)(12)(13)の熔着性が向上し作業能率を増進させるものである。そして有孔透明プラスチックフィルム(6)には無数の小孔(8)を穿設しているから、網目状不織布(3)を経た高圧蒸気はその小孔(8)より袋体内に自然に浸入する。

又本案における網目状不織布(3)は、毛細管現象により高圧蒸気を通過させるものであって、常温常圧下においての空気は僅かに通過させるが、側端部(10)(11)(12)(13)を熱熔着した後は網目状不織布(3)が細菌を遮断するから、滅菌器内より滅菌袋を取出しても破滅菌器具の滅菌状態は継続するものである。そして本案は外部より収容物が透視できて作



薬上便利であり、経済的に使用できるものである。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本案滅菌袋内に被滅菌器具を入れ、収容口を熔着した平面図、第 2 図は本案の収容口の一部を切開した平面図、第 3 図は第 2 図(B) - (B) 線における切断面の一部拡大図、第 4 図は側端部熔着前における片面の相乗プラスチックフィルムと、他面の透明プラスチックフィルムの一部横断拡大面図、第 5 図は一侧端部を熔着した後、相乗プラスチックフィルムの各々を剥離した状態を示す拡大斜面図、第 6 図は第 1 図(A) - (A) 線における切断面の一部拡大図である。

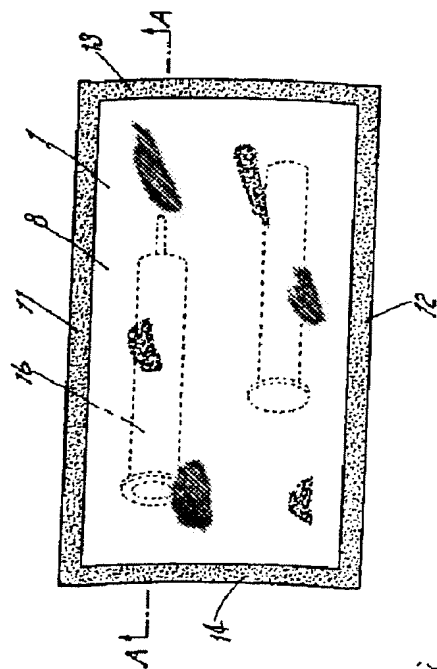
図中、(1) …… 透明プラスチックフィルム、(2) …… 片面、(3) …… 網目状不織布、(4) …… 片面、(5) …… 他面、(6) …… 有孔透明プラスチックフィルム、(7) …… 片面、(8) …… 相乗プラスチックフィルム、(9) …… 透明プラスチックフィルム、(10) …… 収容口、(11) (12) (13) …… 側端部。

実用新案登録出願人 大研医器株式会社

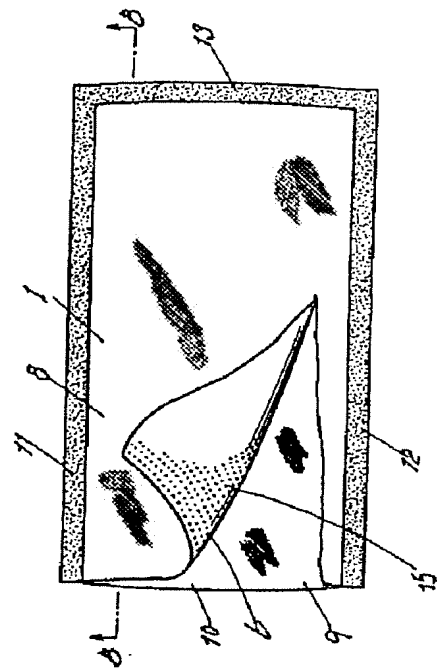
代表者 山 田 満

(6)

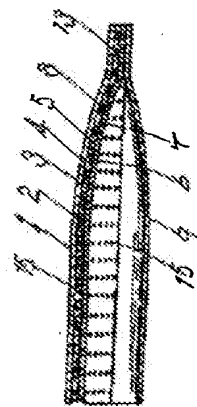
第1図



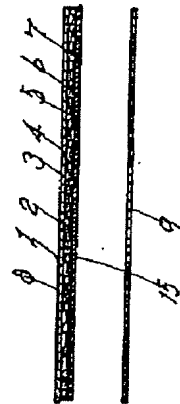
第2図



第3図

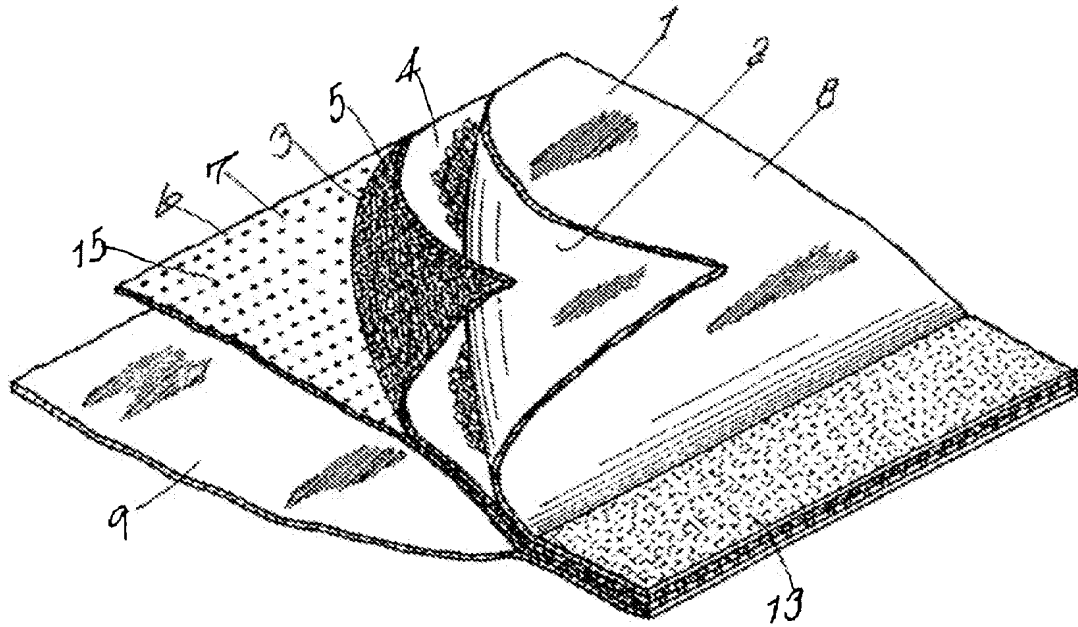


第4図



代理 大宮 正一

第 5 図



第 6 図

